

平成28年度前期学校関係者評価委員会報告

10月27日(木)に実施した学校関係者評価委員会において、前期の学校評価結果を示し、学校関係者評価委員の皆様から以下のようなご意見等を頂いた。

- どの学級も児童に分かりやすい授業をされていると思う。教室內もよく整理整頓されている。
- 授業参観をすると、前に出て説明している児童の姿もよく見かけるが、それでも「話し合い活動が苦手であり、友達の意見を最後まで聞くことが苦手」という結果になっている。発表が形式的になっているのか。今後も意図的に取り組むことが必要と思う。認め、褒めることで自信を持たせることも必要だと思う。
- 授業中の返事はよいと思う。しかし、自信がないのか全体的に声が小さいように思う。大きな声が出るように育てて欲しい。
- 鉛筆の持ち方が気になる児童も見られた。低学年での指導を徹底することが必要と思う。
- 自学ノートの取組は、可能性があると思う。さらにレベルアップを目指すこと。親にも分かる様な自学ノートを作らせることも一方法と思う。
- 自学が一番大事と思うが、分からない部分については、何回も繰り返し教えることも必要と思う。
- 教師の自己評価については、厳しく評価されていることは理解できるが、自信を持って評価できる点が薄れてしまい分かりづらい。
- 児童のアンケート調査において、自己評価が低かった児童に対しては、担任を中心に、原因を探り細やかな対応を図っていくことが必要と思う。
- 花の水かけは、月1回ほどは高学年に地域別に分けてさせてもいいと思う。
- 保護者から「図書室が狭い」というご意見も出されているが、多目的ホールはそのためにも設計されているので、効果的な活用を考えるとよいのではないか。それ以上に、本のページをめくる楽しみを味わわせ、読書する児童を育成することが大切である。
- 学校側に頼り切っている様子。家庭での指導に言葉だけでなく実行動が欲しい。特にゲームや読書について。
- 雨の日の子どもの送迎など、親が甘くなっている傾向も感じる。子どもが大きくなるにつれてその傾向が顕著である。(高校生が送ってもらっている)時代の変化もあるであろうが、保護者への啓発も必要。
- 言葉遣いについては、家庭での教育も大切と思う。子どもたちだけでなく、先生方も注意すべき点もある。
- 言葉遣いで時々大人でも年上とか親とかにおかしな言葉を遣う人がいる。子どもの時から言葉遣いに気を付ける様にしたい。
- 朝食は、体を作る大切な食事。パンで済まさずご飯を食べさせたい。早寝早起き朝ご飯は、小さい時から習慣づけたい。
- 各家庭で子どもを中心とした生活ができているか疑問に思うこともある。保護者が、家庭でのしつけが必要という認識を持つこと。むし歯の治療が50%ほどというのは、親が子どもを大切にしていない現れと思う。
- 挨拶ができる子どもを育ててほしい。知っている人には挨拶をよくするが、ゴミ出しにいつている人等、知らない人には何も言わないでいくという話を聞くことがある。
- 全体として豊水らしさが少なからず出ている様です。現状から更に改善すべき点を一つ一つ実施し、習慣づけるものにしたい。